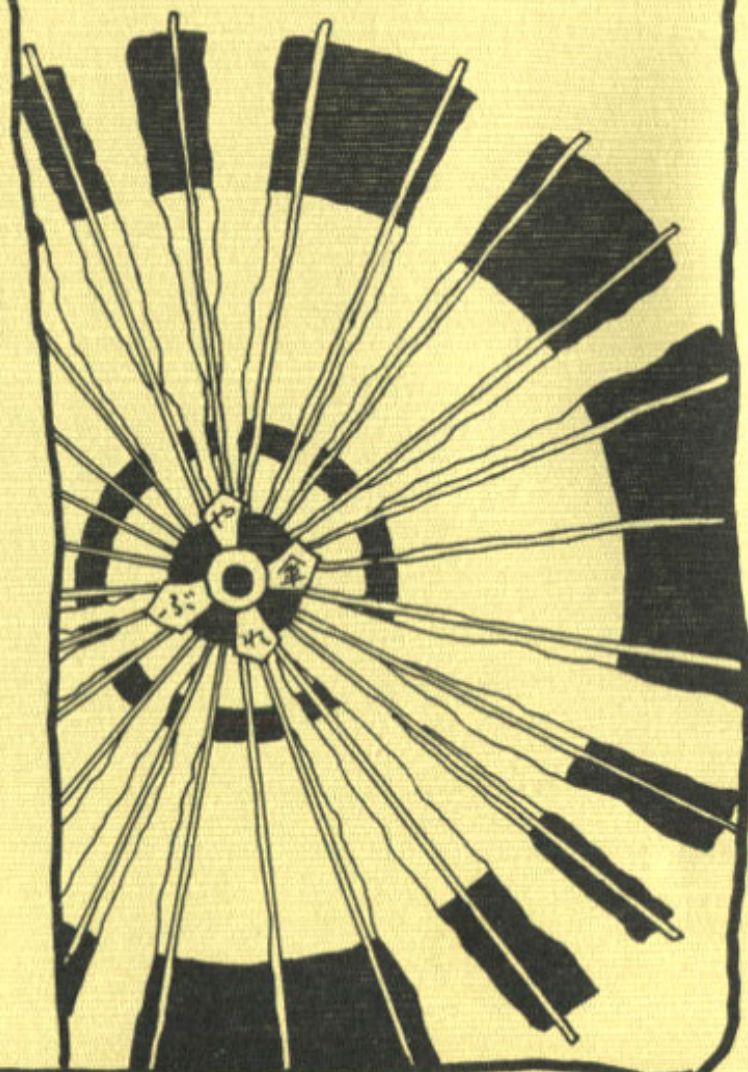


やぶれ傘

八十三号

二〇一五年四月



船腹のタイヤ寄りくる猫柳 根橋宏次

屋上に並ぶ鉢植ゑ鳥雲に きくちきみえ

野球見る自転車籠にさくら餅 大島英昭

釣り舟の離れて浮かぶ春の池 廣瀬雅男

戸袋に鳥ある気配竹の秋 瀬島酒望

帰りゆく鳥か櫂の芽吹く空 藤井美晴

臘月新宿駅へ坂上る 丑久保勲

轉りや紅茶の茶葉の踊る朝 安藤久美子

春月や土手に佇む人のゐて 白石正躬

交差点見おろすカフエ花の午後 青谷小枝

愛想なき犬撫でてゐてうらなり 小山陽子

春めけり伝言板の伝言の 渡邊孝彦

出荷者の名に憶えあり春野菜 久世孝雄

京菓子の春めくいろを二つ三つ 菊池洋子

分校は今幼稚園梅白し 國保八江

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

春の雪サクラサクとふメール来る 有賀昌子

春風にバス待つ間吹かれをり 松村光典

梅まつり犬は雑木につながれて 時田義勝

飛石に日射しうつりて春隣 野口朝世

自転車を疊む群あり春の駅 橋本美代

風花や発掘現場説明会 松本善一

やはらかく膝つく庭師冬牡丹 松本正生

日向ぼこ三途の川を見たやうな 秋山信行

鼓動聴く寝袋のなか春の闇 大野芳久

間を置きて雪落つる音越の夜 奥田温子

木瓜の花袋小路をもどるとき 神山市実

開けるたび鈴鳴る財布百千鳥 上林富子

父の手の時にやさしく雪兎 菊池葉子

種蒔きの種を小分けに布袋 黒木東吾

青鬼とハイタッチの子節分会 齋藤朋子

春 月

白石正躬

庭先を鳥の行き交ふ春隣
水際の日あたるところ鴨の群
早春の空のなかなる鳶かな
早春の土手を人声通りけり
白梅の昏れ残りゐる農家かな
春月や土手に佇む人のゐて
窓をあけ朝の囀り入れにけり
初鰯を見せて男の帰りけり
からし菜の土手に流るる時報かな
長き土手けぶりて春のきてゐたり

花の午後

青谷小枝

高圧線ゆるくたわみて山笑ふ
絹糸の髪なでつけて雛飾る
千代紙の衿を幾重や雛を折る
白湯に足す梅干しひとつ春の夜
なにやらにポケット膨れゐる遅日
永き日の焙じ茶匂ふ商店街
いたどりやつなぎで長き山羊の綱
莖立の花やしばらく雨ばかり
春昼の花のかをりの紙せつけん
交差点見おろすカフェ花の午後

春の湖

小山陽子

春寒しパンタグラフのかたかたと
車庫にある電車に明かり春の夜
愛想なき犬撫でてゐてうららなり
坪庭の闇に白木蓮の立ち
春の湖光りて亀はぢつとして
人に似る声の鴉や花盛り
春の夜の一番星の赤さかな
芽柳の枝絡まつてゐるやうな
桜まじ左目ばかり痒くなる
道端にぺんぺん草とボールペン

伝言板

渡邊孝彦

葱畑の先にごみ焼く煙かな
川波や午後の日の射す浮寝鳥
禅寺の掃き清められ日脚伸ぶ
曇りのち晴れの日となりミモザ咲く
春めけり伝言板の伝言の
みなくちのまはりにいぬのふぐりかな
烏森神社に寄れば月おぼろ
春昼の公園の池浮子動く
菜の花の畑に水車まはる音
垣根よりさつきの蝶のもどりきて

春野菜

久世孝雄

川辺りに小さき足跡春近し
吹き出でる砂にまみれて水草生ふ
掃き寄せて朱の山をなす落椿
出荷者の名に憶えあり春野菜
苗選ぶ今植ゑ時の春キャベツ
ぬくぬくの土を均して種を蒔く
つるばらの芽吹きを門をくぐりけり
鴨引きし沼にさざなみ昼下り
一吹きで数多空へとシャボン玉
お隣も春爛漫の短歌欄

水温む

菊池洋子

走り根の上に走り根日脚伸ぶ
薄氷をうごかしてゐる鯉の口
艇庫より塗料の匂ひ水温む
ものの芽やゆつくり動く乳母車
京菓子の春めくいろを二つ三つ
線香の灰の直立春の雷
春塵を被る鞍馬の天狗鼻
春霞蛇行の川のゆるやかに
島々をむすぶ航跡遠霞
蹲踞のあたらしき杓水温む

梅白し

國保八江

皿の絵の透けて見えたる河豚刺身
孫と過す午後のひととき餅を焼く
山門の前に踏切いぬふぐり
針供養僧十人の御成りかな
雪折れの竹に行く手を遮られ
春寒し日向で食べるチョコレート
分校は今幼稚園梅白し
一輪の椿を活けて客間とし
暖かし置き葉屋の荷を広げ
逆縁の卒塔婆を墓に春の雪

春の雪

有賀昌子

ひとり居のシュークリームや春の昼
アルバムに逝きし師と友忘れ霜
春の雪サクラサクとふメール来る
千代紙の吊るし飾りに春の風
春の昼弁天堂の茶屋に坐し
鶺鴒の尾をつんつんと春の庭
方丈の庭に三桮咲きにけり
雛飾るむすめ嫁いで二十年
三桮咲く囲み記事には汀子の句
鎌倉をめぐるひと日や立子の忌

たんぽぽ

松村光典

雨上がり深く息する二月かな
たんぽぽや日差しやさしく雨上がり
沈丁花紅のつぼみをふくらます
半月のおぼろおぼろに二月尽
庭向いて猫座る春来たりけり
春一番くるや生き生き風見鶏
春なれや犬四匹の乳母車
時や春スマホ忘るる歳や秋
春来たる泣く子笑ふ子走る人
春風にバス待つ間吹かれをり

鈴木昌子

初春の火伏せのお札鬼子母神
 初雪の降り積りけり新都心
 梅一輪朝日射し来る参道に
 教会にアーメンのこゑ春立つ日
 神木の太郎次郎や春の雲
 梅ひらく目玉の光る閻魔さま
 那智の滝袴の赤き巫子に春

高橋均

寒林を避けて気儘な散歩かな
 つま先で猫じやらしをり掘炬燵
 信号はこの先も赤冬の宵
 マフラーをポケットに入れクロークへ
 どぶに沿ひねずみの走る春隣
 目薬の目よりあふる余寒かな
 春の雪積みて貨物車停まりをり

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句 会 名	会 場	連 絡 先
5 月	1 日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5 日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	5 日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6 日(水)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WE P俳句教室	藤 井 美 晴
	23日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WE P俳句教室	WE P編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6 月	1 日(月)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2 日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	2 日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	5 日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5 日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WE P俳句教室	藤 井 美 晴
	21日(日)	AM10:00	吟 行 会 (下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WE P俳句教室	WE P編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHKは第5金曜日の29日(金)です。

6月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は横浜のJR根岸線
根岸駅改札口。横浜駅より大船方面15分乗車。吟行地は三溪園。
句会場は神奈川近代文学館。

◎ 連絡先	瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757	藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733
	大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041	WE P編集室 ☎ 03-5368-1870
	廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
	丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WE P俳句教室 WE P編集室へ